

丹波市立農の学校検証委員会 受講生調査（修了時アンケート） 分析資料

I はじめに

1. 分析の目的

本資料は、丹波市立農の学校の修了時に1期生～7期生の受講生を対象として実施したアンケート調査の結果から、農の学校の運営及びカリキュラムに係る強み・課題・今後の方向性を整理したものである。

分析にあたっては、修了時アンケートを対象としている。

2. 調査概要

調査対象	農の学校 受講生（1期生～7期生）の修了時
調査方法	農の学校が修了時に実施するアンケート調査
回収数 (期生別)	1期生 13件／2期生 11件／3期生 18件／4期生 15件／5期生 16件／ 6期生 16件／7期生 5件（計 94件）
留意点	アンケートの設問は実施年度ごとに一部変更があるため、すべての項目について一律の集計・比較ができない場合がある。5段階評価については加重平均により算出している。

3. 本資料の構成と留意点

本資料は、修了時アンケートの設問構成に沿って項目を設定し、項目ごとに以下の構成で整理した。

- ①【調査結果】アンケート結果の要点（出典は（修了時アンケート問●）または設問名で記載）
- ②【強み】農の学校の取組が評価されている点、成果として確認できる点
- ③【課題→方向性】今後の改善・検討に向けた論点と方向性

修了時アンケートは設問内容が年度ごとに変動しており、特に6期生・7期生で詳細な自由記述が得られている設問が多いため、それらの記述を中心に分析した部分がある。

Ⅱ 学校・カリキュラム評価

1. 農の学校の特徴の認識

調査結果	農の学校に当てはまる特徴として、2期生から7期生まで「就農準備ができる」「農業の基礎知識・技術が広く学べる」「有機農業に関する専門性が身につく」が上位となっている。（修了時アンケート農の学校について）
成果 強み	就農準備・有機農業の専門性・農業の基礎を幅広く学べるという学校の核となる価値が、期生によらず一貫して認識されている。
課題 方向性	就農準備の評価に比べ、経営・販路など就農後を見据えた実務面の学びは不足感があるため、既存の強みを維持しつつ経営・販路などのカリキュラムの拡充が求められる。

2. 学校生活全般の満足度

調査結果	学校生活全般の満足度について、「満足度は高い水準」と評価されている。（修了時アンケート【学校生活全般】全体を通じての満足感）
	カリキュラム・教材・指導内容については、1期生は「普通」評価だが、2期生から7期生は概ね満足度が高くなっている。（修了時アンケート【学校生活全般】カリキュラム、教材、指導内容）
	学校施設・設備の充実度は、年度ごとに評価のばらつきがあり「普通～満足」となっている。（修了時アンケート【学校生活全般】学校施設、設備の充実度）
成果 強み	学校生活全体の満足度は高く、受講生にとって農の学校は概ね肯定的な学びの場となっている。
課題 方向性	施設・設備や実習機会に関する不満があるため、備品管理の定期的な実施や受講人数に応じた実習設計の見直しが必要である。

3. 受講料の評価

調査結果	受講料の設定の適切性については、満足度に低下傾向が見られる。（修了時アンケート【カリキュラム】受講料の設定）
	一方、受講料と学習内容のボリュームの適切性は概ね適正と評価されている。（修了時アンケート【カリキュラム】受講料と学習内容のボリュームは適切でしたか）

成果 強み	受講料に対する学習量・内容の評価は概ね適正であり、学びの量は受講料に見合うものとして受け入れられている。
課題 方向性	受講料の設定への満足度は低下傾向にあるため、他校との比較を踏まえた説明や、就農後支援などの付加価値の見える化が求められる。

4. 開講期間・授業時間帯

調査結果	開講期間・授業時間帯について、6期生・7期生から具体的な改善要望が挙がっている。（修了時アンケート【カリキュラム】開講期間や授業時間帯） 6期生：「授業はもっと早い時間からでもいい」「外部視察等の時間が多いので、実習時間を増やしてほしい」「サマータイムの前に準サマータイムがあるといいのではないか」「冬以外の9時開始は遅すぎるのではないか」「夏はもう1時間は早くても良い」など。 7期生：「3月スタートがいいのではないか」「予定の情報共有が遅い」「サマータイムの昼休みは短くても良いのではないか」など。
成果 強み	サマータイム制度が導入されており、季節に応じた柔軟な時間設定が試みられている。受講生からは「夏場の早朝は涼しい時間に作業できて良い」との評価もある。
課題 方向性	開始時刻や年間スケジュールの修正、情報共有の遅れがあるため、栽培サイクルを踏まえた時間設計と早期の予定共有が必要である。

5. 農場実習・栽培講習の評価

調査結果	農場実習に対する全体的な満足度は、2期生から7期生で「普通～満足」の評価となっている。（修了時アンケート【カリキュラム】農場実習に対する全体的な満足度） 栽培講習（神川専任講師）の満足度は高い水準である。（修了時アンケート【カリキュラム】栽培講習（神川専任講師）） 栽培講習（専任講師以外）の満足度は、5期生から7期生で高い水準となっている。（修了時アンケート【カリキュラム】栽培講習（専任講師以外）） 農業技術講義（座学）は全体として満足度が高い傾向にある。（修了時アンケート【カリキュラム】農業技術講義（座学）） 自由記述では「自分の圃場に対するアドバイスをもらえた」「熱意ある指導だった」「色々な先生がいて面白かった」などの肯定的な声がある。一方で、実習の遅れや機械操作指導に対する不足感などの指摘がある。
------	---

成果 強み	農場実習・栽培講習・座学はいずれも満足度が高く、専任講師を中心とした指導の質が学校の強みとなっている。
----------	---

課題 方向性	実習時間不足や機械操作の不足感が指摘されているため、実習優先の時間配分と機械実習機会の拡充を進める必要がある。
-----------	---

6. データ活用講義・農業経営講義・ゼミナール

調査結果	データ活用講義は、年度ごとに評価のばらつきはあるものの、全体としては「普通」との評価が中心となっている。（修了時アンケート【カリキュラム】データ活用講義）
	自由記述では「具体的な分析方法、活用方法を教えて欲しかった」「農業と結びつきにくいと感じた」「記録ができ、まとめられる点が良い」「テンポが速く、ついていくのが大変だった」などの声がある。
	農業経営講義について、6期生では「色々な方の話が聞けて良かった」、7期生では「在学中から販路を作れるような学校ならいいなと思った」「それぞれ路線が違う農家を選抜してカリキュラムにいれてもらえたら自分にマッチするスタイルが見つかる」との声がある。（修了時アンケート【カリキュラム】農業経営講義）
	ゼミナールは年度ごとに評価のばらつきがあり「普通～満足」の評価となっている。「神川先生の個別相談会や営農計画のブラッシュアップがなかった」「就農後に見直せる体系になっていないため、最終成果物となるようにしてほしい」との声がある。（修了時アンケート【カリキュラム】ゼミナール）

成果 強み	データ活用や多様な経営事例に触れる機会が提供され、経営意識を高める土台は形成されている。
----------	--

課題 方向性	データ活用講義は農業現場との結びつきが十分に伝わりにくく、農業経営講義も具体的な販路に結びついていないことから、具体事例の活用や販路実践、営農計画の完成を重視したカリキュラムが求められる。
-----------	--

7. マスター農家研修・プロ農家研修・なりわい講座

調査結果	マスター農家研修について、全体として満足している傾向が見受けられる。「学校でするような作業もあったので、マスターならではの研修にしてほしい」「機械類も動いているのを見るだけなら必要ないと感じた」「参考になるものとならないものがあつたが、どのような人がいるのかはつかめた」「長年の経験をお聞きできる非常に貴重な時間だった」などの声がある。（修了時アンケート【カリキュラム】マスター農家研修）
	プロ農家研修（視察）について、6期生・7期生ともに肯定的であるが、一

	方、「現地に行くために有志が自家用車を出して相乗りする移動方法はダメだと思う」「猛暑の時は避けて頂きたかった」との声がある。（修了時アンケート【カリキュラム】プロ農家研修（視察））
	プロ農家研修（作業）も肯定的で、「作業の動線などが参考になった」「実際の作業スピードを知ることができた」「各農家で実務の話が細かく聞けた」「より実践的な作業方法を学べた」との声がある。（修了時アンケート【カリキュラム】プロ農家研修（作業））
	地域なりわい講座は「どの講座もとても勉強になった」「農業以外の分野について幅広く見聞を広めることができた」「実際の経営について、現場の声を直接聞いた」「地域特性を知る貴重な時間だった」「農業以外のジャンルも学べるのはとても良いと感じた」など高く評価されている。（修了時アンケート【カリキュラム】地域のなりわい講座）

成果 強み	プロ農家研修やなりわい講座は特に評価が高く、学校外での実践的・地域密着型の学びが充実している。
------------------	---

課題 方向性	研修の内容や移動・実施時期に課題があるため、研修目的を明確化し、学校主導での運営体制を整える必要がある。
-------------------	--

Ⅲ 事務局運営・進路サポート

1. 事務局・運営

調査結果	事務局の全体的な運営に対する満足度は「普通」という評価が多くなっている。（修了時アンケート【事務局について】全体的な運営に対する満足度）
	自由記述では、「スタッフ内のコミュニケーションが不足していると感じた」「ホームルームや面談も最後までしっかりしてほしかった」「報連相を強化してほしい、事務局側の連携強化が必要と感じた」「講師と会話してしっかり連携して欲しかった」などの声がある。（修了時アンケート【事務局について】）
成果強み	運営上の課題がある中でも、受講生の主体性や相互協力が育まれている側面がある。
課題方向性	事務局内および講師との連携不足が継続的に指摘されているため、年間計画の明示とコミュニケーション体制の再構築が必要である。

2. 進路サポート

調査結果	卒業後の進路に関するサポートについて、「普通」という評価が多くなっている。（修了時アンケート【進路について】農の学校では、卒業後の進路に関して十分なサポートを受けられましたか）
	卒業後の進路は、おおむね希望と一致している傾向が見られる。（修了時アンケート【進路について】卒業後の進路は、ご自身の希望するキャリアプランに合致していますか）
成果強み	卒業後の進路は概ね希望と一致しており、就農実現率は高水準にある。
課題方向性	修了直前の不安への対応が不十分な部分もあるため、在学中から販路・収入を含めた伴走型支援を体系化することが検討課題となる。

Ⅳ 学校生活全体を振り返って

1. 良かったこと

調査結果	7期生からは、「色々な人と出会えたこと」「農業に向き合えた」「就農準備が最短でできた」が良かったこととして挙げられている。（修了時アンケート【その他】1年間の学校生活を通じて、良かったこと）
成果強み	人との出会いや農業に集中できる1年間が、受講生にとって大きな価値となっている。
課題方向性	在学中に形成された人的ネットワークを修了後も活かす仕組みづくりが求められる。

2. 悪かったこと・困ったこと

調査結果	6期生からは、「全体的にまとまりがなかった」「作業担当の決め方に不公平感があり作業が偏ること」が挙げられている。（修了時アンケート【その他】悪かったこと） 7期生からは、「コミュニケーション不足により、予定など作業の方向性がはっきりしないことがあった」「先生の授業の内容と事務局側の連携がギクシャクしている様に感じた」「面談に先生が入っても良いかなと思う」「品目が多い為、いくつかの品目は手がまわらなかった」「農地が見つからなかったこと」が挙げられている。
成果強み	具体的かつ建設的な改善意見が多く、学校改善に活かせる情報が蓄積されている。
課題方向性	運営の「まとまり」「方向性の明確さ」「コミュニケーション」「連携」に関する課題が指摘されているため、運営の方向性や連携等を改善する体制の再構築が必要である。

3. あったら良かったと思うこと

調査結果	6期生からは、「ユンボや馬力の違うトラクター」「懇親会」が挙げられている。 7期生からは、「特に一人暮らしの方のために地域の農業以外のコミュニティに入るオプション（紹介）」「販路確保実習」「機械を使った稲作の授業」「丹波で盛んな作物にかける時間」「果樹の栽培実習」が挙げられている。（修了時アンケート【その他】あったら良かったと思うこと）
------	--

成果 強み	受講生から具体的なカリキュラム拡充の提案（販路確保実習、機械稲作、丹波の作物、果樹栽培等）が複数寄せられている。
----------	--

課題 方向性	カリキュラムや地域、販路について未充足があるため、優先順位を整理した上でカリキュラムを拡充することが求められる。
-----------	--

4. 卒業後に必要なサポート（事務局・丹波市）

調査結果	6期生からは、「公開の講座等の情報」「補助金関係の情報」「販路の支援」「栽培のアドバイス」が挙げられている。 7期生からは、「卒業生が参加できる講義」「販路確保の支援」「軌道に乗るまでの収入確保プラン」「補助金関係の情報」「卒業生の連携に関する情報提供」「販売コミュニティ」「住居と農地のセットでの紹介」が挙げられている。（修了時アンケート【その他】卒業後にどのようなサポートがあれば役に立ちますか）
------	--

成果 強み	卒業後に必要なサポートとして、補助金情報、販路支援、栽培アドバイス、修了生コミュニティ形成など具体的かつ現実的な要望が示されている。
----------	--

課題 方向性	販路、補助金、栽培アドバイス、住居・農地、修了生連携など、複数領域にまたがる支援を統合的に提供する仕組みを整えることが求められる。
-----------	---

V 総括

1. 主な成果・強み

受講生の修了時アンケートからは、農の学校の主な強みとして以下が確認された。

- 就農準備に特化した学校**
 「就農準備ができる」「有機農業の専門性が身につく」「基礎を幅広く学べる」という学校の特徴が、期生を超えて安定的に認識されている。
- 農場実習・栽培講習を中心とした教育の質の高さ**
 農場実習、栽培講習、農業技術講義はいずれも満足度が高く、基礎技術習得において充実したカリキュラムとなっている。
- 専任講師を軸とした指導体制への高い評価**
 専任講師による具体的で実践的な指導が受講生から高く評価され、学習の信頼性を支えている。
- 学校外における実践的な学びの充実**
 プロ農家研修や地域なりわい講座により、現場感覚や多様な経営スタイルに触れる機会が確保されている。
- 進路実現と受講生の主体性**
 卒業後の進路は概ね希望と一致しており、受講生からは建設的な改善提案も多く、主体的に学びに向き合う姿勢が育まれている。

2. 主な課題と方向性

一方で、受講生の修了時アンケートからは以下の課題も明らかとなった。

- 実践性（経営・販路・機械等）の不足**
 就農後を見据えた経営・販路、農業機械の操作などについて、学習機会が十分とは言えず、基礎技術習得に比べて実践的・経営的な学びが不足しているとの声が見られる。
- 進路サポート・修了後支援の体系化不足**
 進路未決定の受講生や修了直前の不安に対する支援が弱く、修了後にどのようなサポートが受けられるのかが分かりにくい状況にある。結果として、就農に向けた見通しを描きにくくしている。

方向性としては、基礎技術に加えて経営・販路・機械操作など就農後を具体的に見据えた実践的カリキュラムを拡充し、販売実践や現場経験の機会を増やす必要がある。あわせて、在学中から修了後までを切れ目なく支援する進路サポート体制を整備することで、就農後の定着と学校の価値向上につなげていくことが重要である。

3. まとめ

修了時アンケートから、農の学校は就農準備に特化した明確な価値を持ち、実習・講習を中心とした教育の質が高いことが確認された。特に、農場実習や栽培講習、プロ農家研修などの実践的な学びは、受講生から高く評価されている。

一方で、就農後の経営・販路までを見据えた支援、修了後支援の体系化には課題が残る。今後は、在学中から就農後までを一体的に支援する仕組みづくりが、学校の価値向上につながる。